

2009年度決算

京王グループ中期5カ年経営計画
(2010～2014年度) ～転換と強化～

説明資料

—2010年5月 7日—

京王電鉄株式会社

本日の内容

I. 2009年度業績 **P 3**

II. 京王グループ中期5カ年経営計画
(2010～2014年度)～転換と強化～ **P 20**

III. 2010年度重点施策・業績予想 **P 31**

I . 2009年度業績

1. 連結損益計算書

〈単位：百万円〉

	2009/3	2010/3	増減額	増減率	2010/3 当初計画増減率
				%	%
連結営業収益	420,150	403,247	△ 16,903	△ 4.0	△ 3.4
連結営業利益	33,581	29,947	△ 3,633	△ 10.8	13.4
連結経常利益	30,260	26,264	△ 3,995	△ 13.2	17.8
連結当期純利益	15,446	11,976	△ 3,470	△ 22.5	8.9
連結EBITDA	67,014	65,819	△ 1,195	△ 1.8	
減価償却費	33,432	35,871	2,438	7.3	
[参考]資本的支出	85,996	77,624	△ 8,372	△ 9.7	

	運輸業	流通業	不動産業	レジャー・サービス業	その他
(営業収益)	△ 38億円	△ 127億円	+ 13億円	△ 54億円	+ 7億円
(営業利益)	△ 22億円	△ 10億円	△ 3億円	△ 5億円	+ 6億円

- (注) 1. 連結EBITDAは、連結営業利益 + 減価償却費により算出している。
 2. 事業セグメント別の営業収益、営業利益の増減額には、セグメント間取引を含む。

1-2 主な業績の変動要因

[連結営業収益・営業利益]

- ＜運輸業：減収減益＞ → (鉄道事業) 減価償却費の増
- ＜流通業：減収減益＞ → (百貨店業) 景気悪化による売上減
- ＜不動産業：増収減益＞ → (不動産賃貸業) 新規物件の稼働
(不動産販売業) 土地販売による増
- ＜レジャー・サービス業
：減収減益＞ → (旅行業) 取扱高の減
- ＜その他：増収増益＞ → (建築・土木業) 完成工事高の増加

2. 連結貸借対照表

〈単位：百万円〉

	2009/3	2010/3	増減額
総 資 産	692,091	731,728	39,636
負 債	453,218	482,207	28,988
純 資 産	238,873	249,521	10,648
負債及び純資産	692,091	731,728	39,636
有利子負債残高	283,794	308,748	24,953
D / E レシオ	1.2倍	1.2倍	—

(注) 1. 有利子負債は、借入金＋社債＋鉄道建設・運輸施設整備支援機構未払金により算出している。

2. D/Eレシオは、有利子負債÷自己資本により算出している。

(総資産) 有形固定資産・投資有価証券の取得による増

(負債) 社債の発行
長期借入金の増

(純資産) 当期純利益の計上による増
その他投資有価証券評価差額金の増

3. 連結キャッシュ・フロー計算書

〈単位:百万円〉

	2009/3	2010/3	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	43,986	54,663	10,677
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 82,844	△ 91,813	△ 8,969
財務活動によるキャッシュ・フロー	31,474	20,448	△ 11,025

(営業活動CF) 法人税等の支払額の減

(投資活動CF) 投資有価証券の取得による支出の増

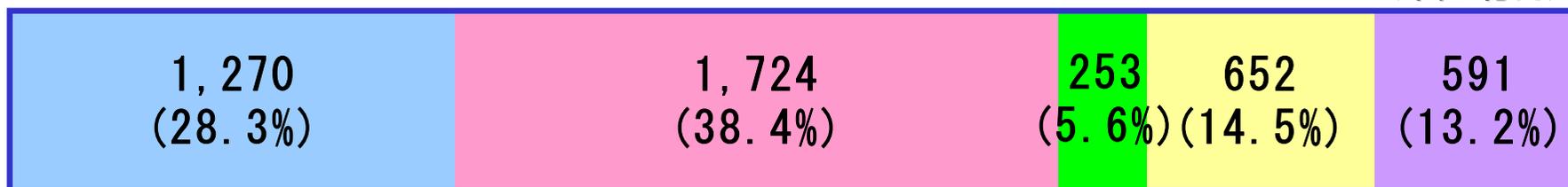
(財務活動CF) 借入金による調達額の減

4. 事業セグメントの構成状況（2010年3月末）

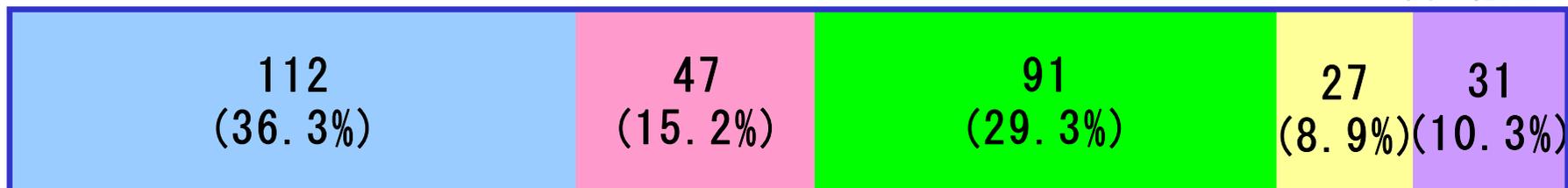
< 連結会社 > 37社 （京王電鉄は複数の事業セグメントに重複して含まれている）

運輸業	流通業	不動産業	レジャー・サービス業	その他
京王電鉄 京王電鉄バス 京王自動車 他 7社	京王百貨店 京王ストア 京王書籍販売 他 6社	京王電鉄 京王不動産 京王地下駐車場	京王プラザホテル 京王観光 京王エージェンシー 他 4社	京王設備サービス 京王重機整備 京王建設 他 8社

< 営業収益 > 2010/3 4,032億円 <単位:億円>



< 営業利益 > 2010/3 299億円 <単位:億円>



(注) セグメントの数値は、セグメント間取引を含む金額、構成比率である。

5. 運輸業の実績

〈単位：百万円〉

	2009/3	2010/3	増減率
			%
鉄 道 事 業	82,680	81,500	△ 1.4
バ ス 事 業	28,844	28,104	△ 2.6
タ ク シ ー 業	13,749	12,306	△ 10.5
そ の 他	2,554	2,226	△ 12.8
外部顧客に対する営業収益	127,827	124,137	△ 2.9
セグメント間取引	3,129	2,962	—
営 業 収 益	130,956	127,099	△ 2.9
営 業 利 益	13,528	11,297	△ 16.5
減 価 償 却 費	21,414	23,543	9.9
資 本 的 支 出	61,180	49,219	△ 19.6

5-1. 鉄道事業運輸成績

<輸送人員>

	2009/3	2010/3	増 減	増減率
	千人	千人	千人	%
定 期	365,559	364,696	△ 863	△ 0.2
(通 勤)	274,679	272,785	△ 1,894	△ 0.7
(通 学)	90,880	91,911	1,031	1.1
定 期 外	271,621	268,479	△ 3,142	△ 1.2
合 計	637,180	633,175	△ 4,005	△ 0.6

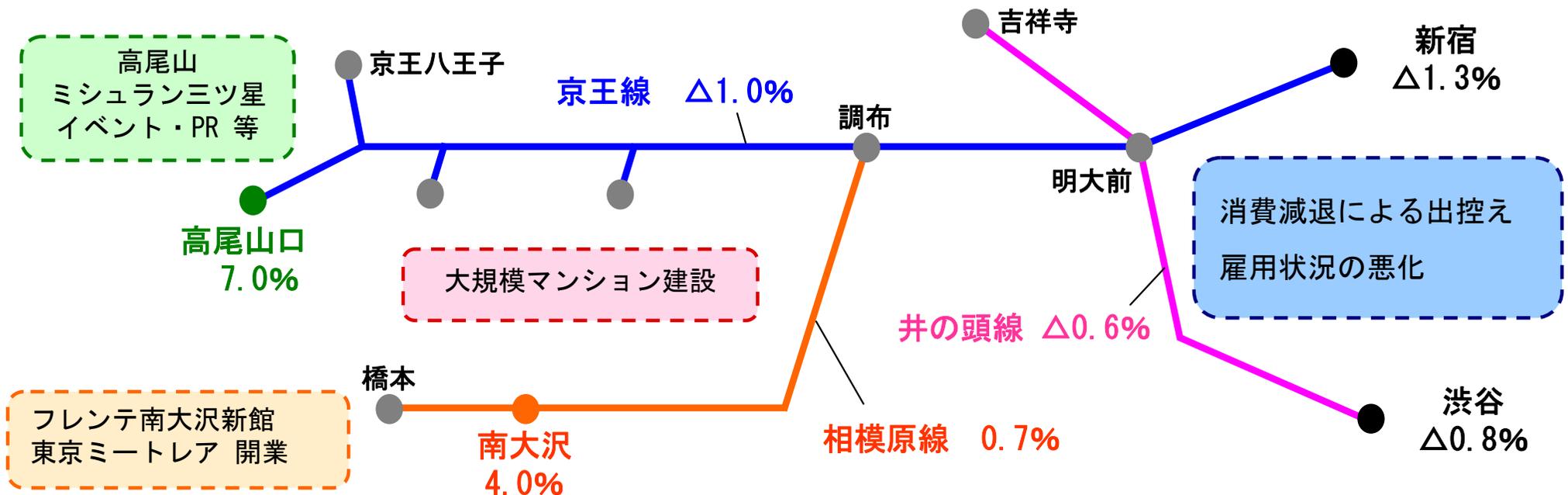
<旅客運輸収入>

	百万円	百万円	百万円	%
定 期	33,948	33,624	△ 323	△ 1.0
(通 勤)	30,333	29,989	△ 343	△ 1.1
(通 学)	3,614	3,634	19	0.5
定 期 外	46,117	45,556	△ 561	△ 1.2
合 計	80,065	79,180	△ 885	△ 1.1

5-2. 旅客輸送人員・運輸収入の分析

<対前年増減率の分析>

		輸送人員	旅客運輸収入	主な増減要因
		%	%	
定期 (通勤) (通学)	定期	△ 0.2	△ 1.0	△雇用状況の悪化 △消費減退による出控え +大規模マンション建設
	通勤	△ 0.7	△ 1.1	
	通学	1.1	0.5	
定期外	定期外	△ 1.2	△ 1.2	※人員と収入の増減率の乖離要因 ・6ヶ月定期へのシフト ・一人平均乗車キロの減
合計	合計	△ 0.6	△ 1.1	



※路線図上の数値は輸送人員・各駅乗降人員の対前年増減率

5-3. バス事業の営業状況

<京王電鉄バスグループ、西東京バスグループの収支状況>

		2009/3	2010/3	増減
		億円	億円	億円
路	線	222	217	△ 5
高	速	46	44	△ 1
貸	切	7	7	△ 0
営業収益合計		297	288	△ 8
営業利益		19	18	△ 0

※ 各バスグループ間において簡易連結した数値を合算

<増減要因>

- 営業収益：路線バス 都区内・多摩地区とも減収
- 高速バス 中央高速バス系統を中心に減収

6. 流通業の実績

〈単位:百万円〉

	2009/3	2010/3	増減率
			%
百貨店業	104,939	96,444	△ 8.1
ストア業	41,317	38,306	△ 7.3
書籍販売業	12,439	11,746	△ 5.6
駅売店業	9,753	9,463	△ 3.0
その他の	14,523	14,484	△ 0.3
外部顧客に対する営業収益	182,973	170,445	△ 6.8
セグメント間取引	2,263	2,010	—
営業収益	185,237	172,455	△ 6.9
営業利益	5,803	4,736	△ 18.4
減価償却費	3,817	3,723	△ 2.4
資本的支出	4,946	4,874	△ 1.5

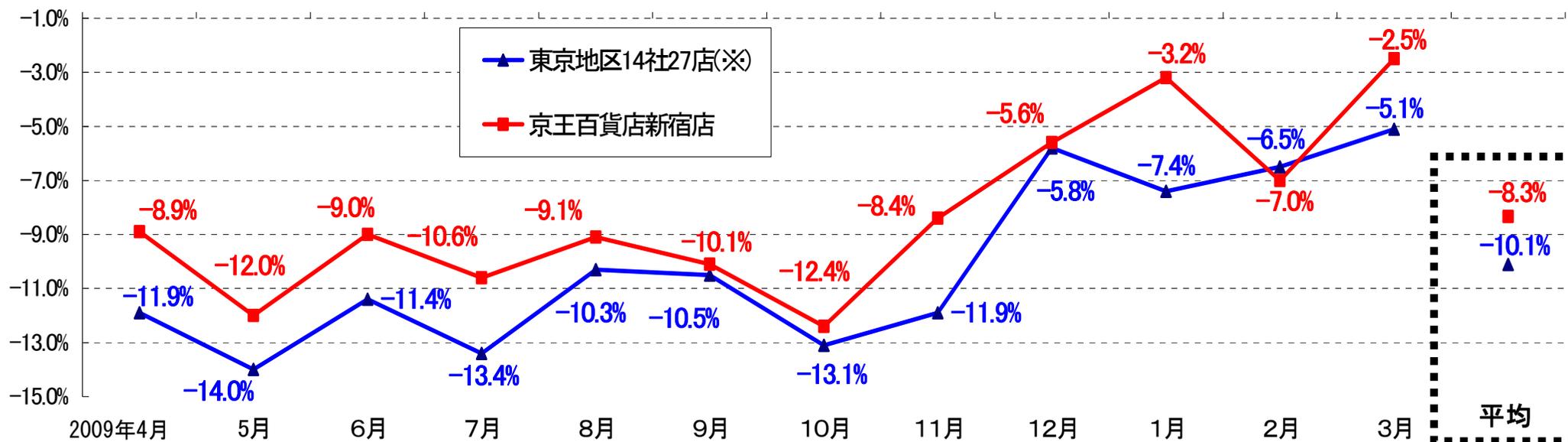
6-1. 京王百貨店の営業状況

<京王百貨店の営業収益>

	2009/3	2010/3	増減
	億円	億円	億円
新宿店	939	861	△ 77
聖蹟桜ヶ丘店	127	116	△ 10
営業収益	1,066	978	△ 87

※ 記載の数値は個社単体ベース、新宿店の売上には外商部門の売上が含まれる

<新宿店の月別対前年売上高増減率の推移>



(※) 出典 日本百貨店協会「東京地区百貨店売上高概況」より

7. 不動産業の実績

〈単位:百万円〉

	2009/3	2010/3	増減率
			%
不動産賃貸業	17,119	18,048	5.4
不動産販売業	3,151	3,823	21.3
その他の	1,383	1,161	△ 16.1
外部顧客に対する営業収益	21,653	23,033	6.4
セグメント間取引	2,310	2,296	—
営業収益	23,964	25,330	5.7
営業利益	9,447	9,136	△ 3.3
減価償却費	3,945	4,140	4.9
資本的支出	15,212	19,936	31.0

7-1. 不動産業営業利益

<不動産業営業利益の内訳>

	2009/3	2010/3	増 減
	億円	億円	億円
不 動 産 賃 貸 業	86	81	△ 5
不 動 産 販 売 業	7	10	2
営 業 利 益 合 計	94	91	△ 3

※ 連結各社の実績に基づき簡便的な方法により算出

<増減要因>

○不動産賃貸業：賃貸資産の計画的な修繕経費の行使などにより減益

○不動産販売業：みなみ野シティ土地の販売により増益

8. レジャー・サービス業の実績

〈単位:百万円〉

	2009/03	2010/03	増減率
			%
ホ テ ル 業	35,459	34,156	△ 3.7
旅 行 業	18,058	16,021	△ 11.3
広 告 代 理 業	5,270	4,479	△ 15.0
そ の 他	6,586	6,156	△ 6.5
外部顧客に対する営業収益	65,374	60,813	△ 7.0
セグメント間取引	5,309	4,386	—
営 業 収 益	70,684	65,200	△ 7.8
営 業 利 益	3,310	2,777	△ 16.1
減 価 償 却 費	3,875	4,126	6.5
資 本 的 支 出	5,460	3,612	△ 33.8

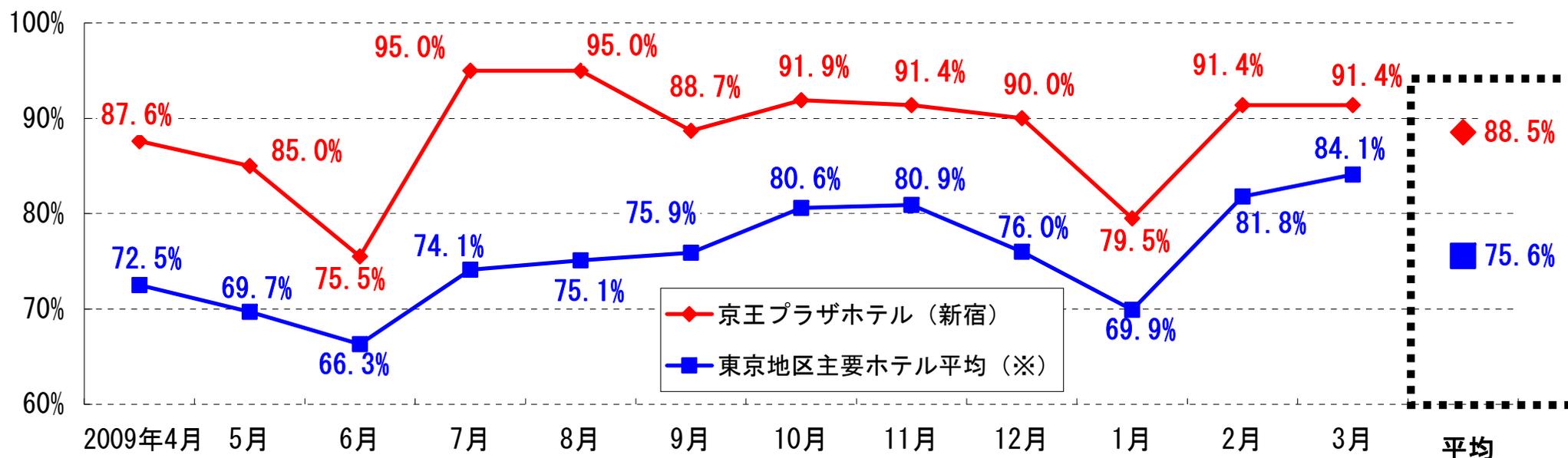
8-1. 京王プラザホテルの営業状況

<京王プラザホテルの営業収益>

	2009/3	2010/3	増 減
	億円	億円	億円
営 業 収 益	270	258	△ 11

※ 記載の数値は個社単体ベース

<京王プラザホテル(新宿)の月別平均客室稼働率の推移>



(※) 出典 (株)オータパブリケーションズ「週刊ホテルレストラン」より(一部当社にて算出)

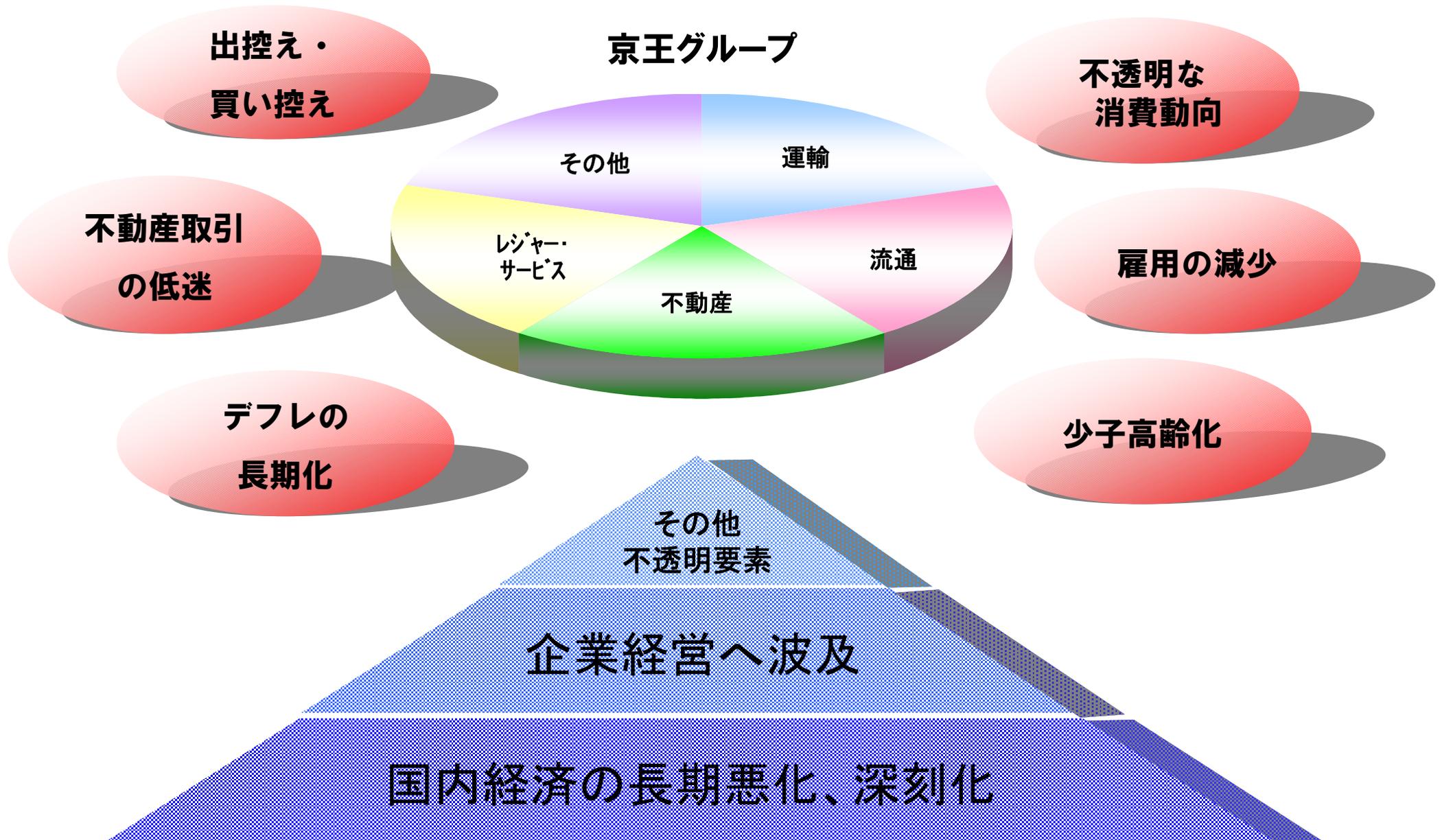
9. その他の実績

〈単位：百万円〉

	2009/3	2010/3	増減率
			%
ビル総合管理業	9,156	9,069	△ 1.0
車両整備業	5,901	6,631	12.4
建築・土木業	6,287	8,126	29.3
その他の	976	989	1.4
外部顧客に対する営業収益	22,321	24,817	11.2
セグメント間取引	35,984	34,283	—
営業収益	58,305	59,100	1.4
営業利益	2,514	3,198	27.2
減価償却費	478	459	△ 4.0
資本的支出	184	642	248.5

Ⅱ．京王グループ中期5カ年経営計画 (2010～2014年度) ～転換と強化～

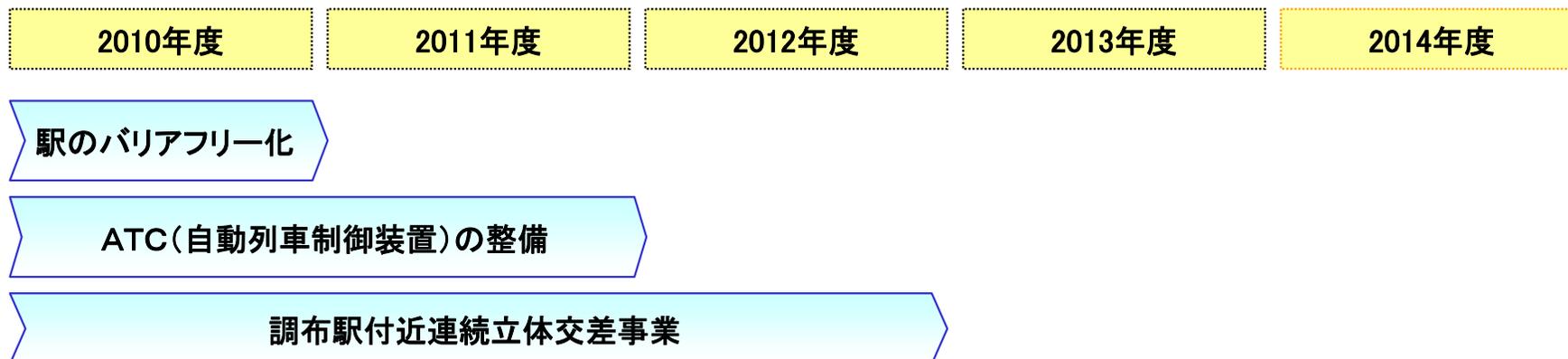
1. 経営環境の現状



2. 基本方針 ① [継続的取組み]

① 公共輸送機関として欠かすことのできない安全性のさらなる向上

< 鉄道の大規模投資のスケジュール (予定) >



橋上駅舎の使用を開始し、バリアフリー化が完了した永福町駅



ATC化が完了した相模原線を走る京王線9000系車両

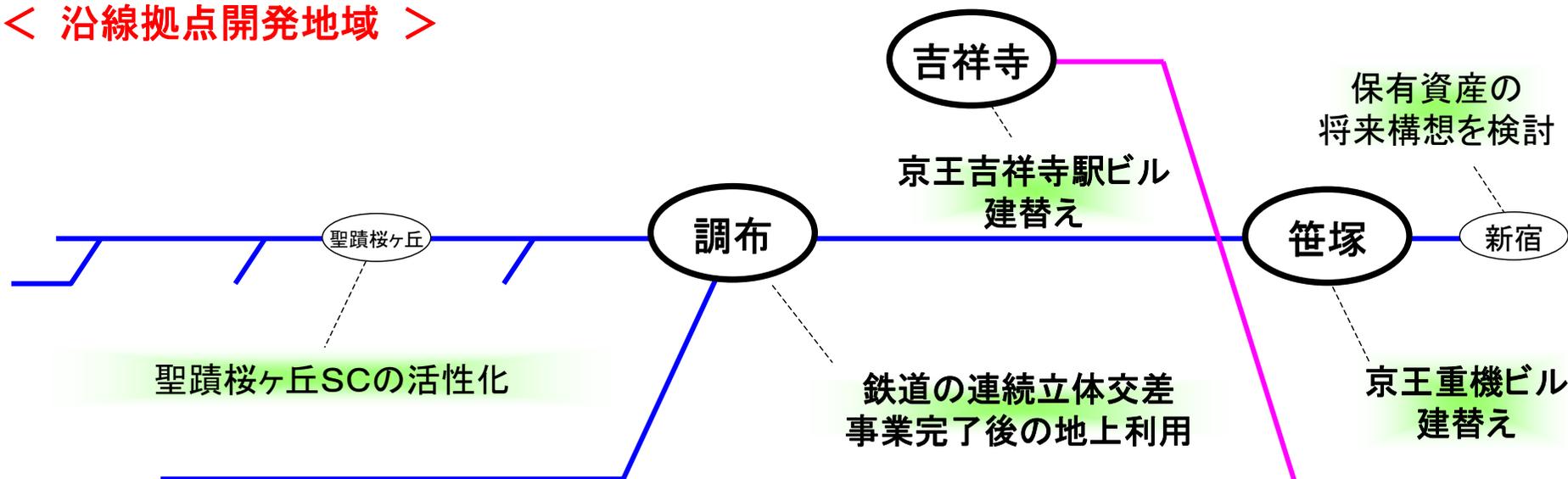


《調布駅付近連続立体交差事業》
国領駅線路下の状況

2. 基本方針 ② [継続的取組み]

② 吉祥寺、調布、笹塚などの拠点開発をはじめとした沿線の活性化の推進

< 沿線拠点開発地域 >



京王吉祥寺駅ビル(完成予想図)

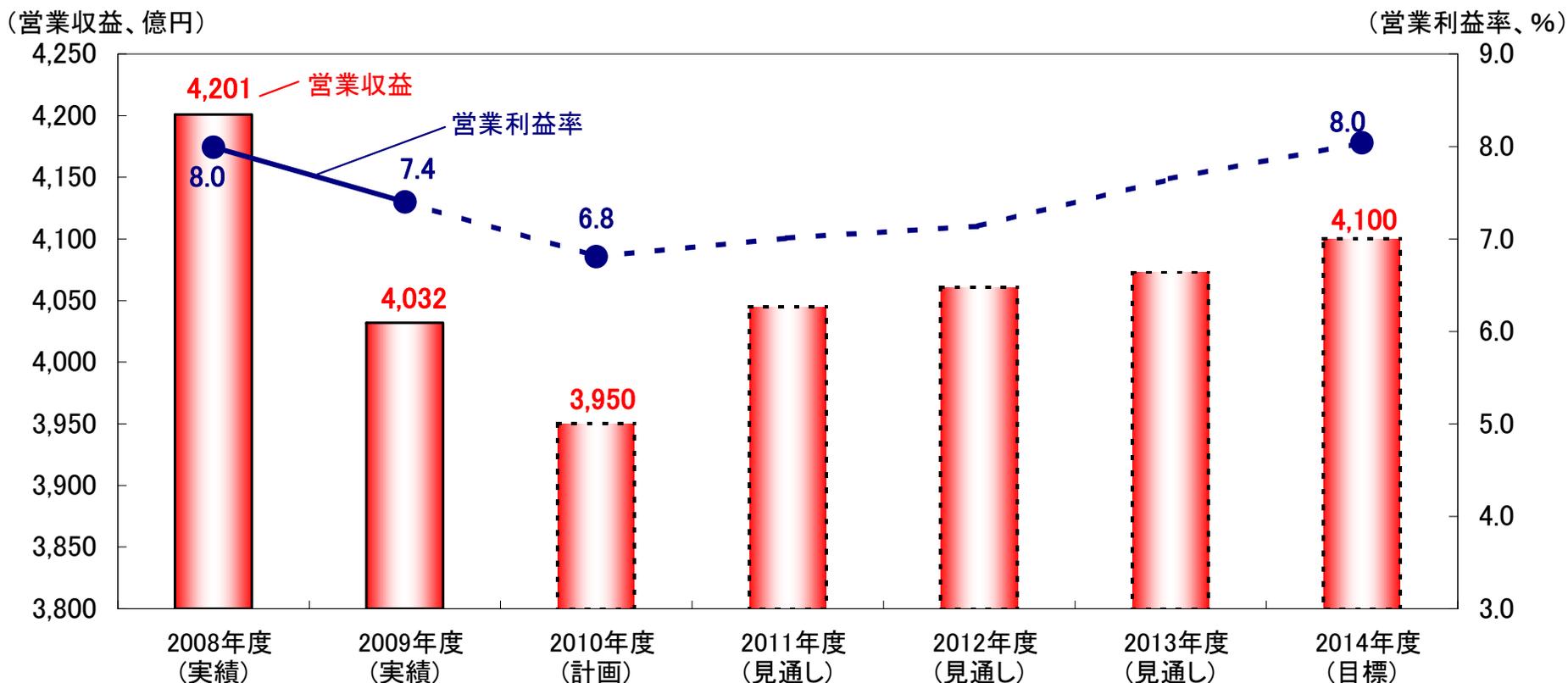


調布地区(現況)

2. 基本方針 ③ [転換と強化]

① コスト構造の転換

< 営業収益、営業利益率の見通し >



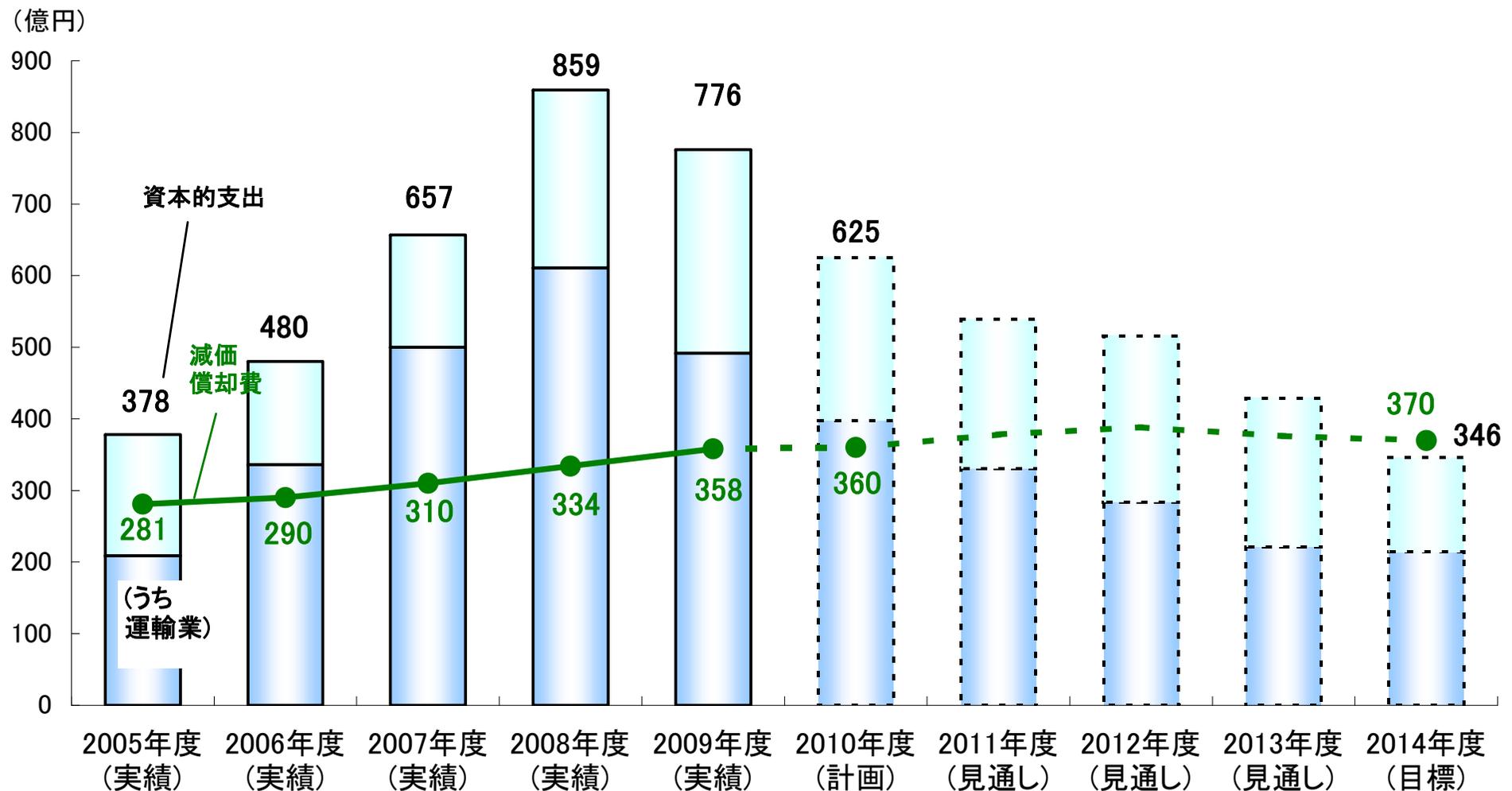
【中期5カ年経営計画の前提条件】

- (鉄道の輸送人員) ・当社沿線市区の将来人口予測は2015年度まで増加基調
・生産年齢人口は2010年度以降減少傾向
- (不動産賃貸収入) ・個別の物件ごとに契約内容や賃料相場を勘案し積み上げ

2. 基本方針 ④ [転換と強化]

② 財務体質の強化

< 資本的支出、減価償却費の見通し >

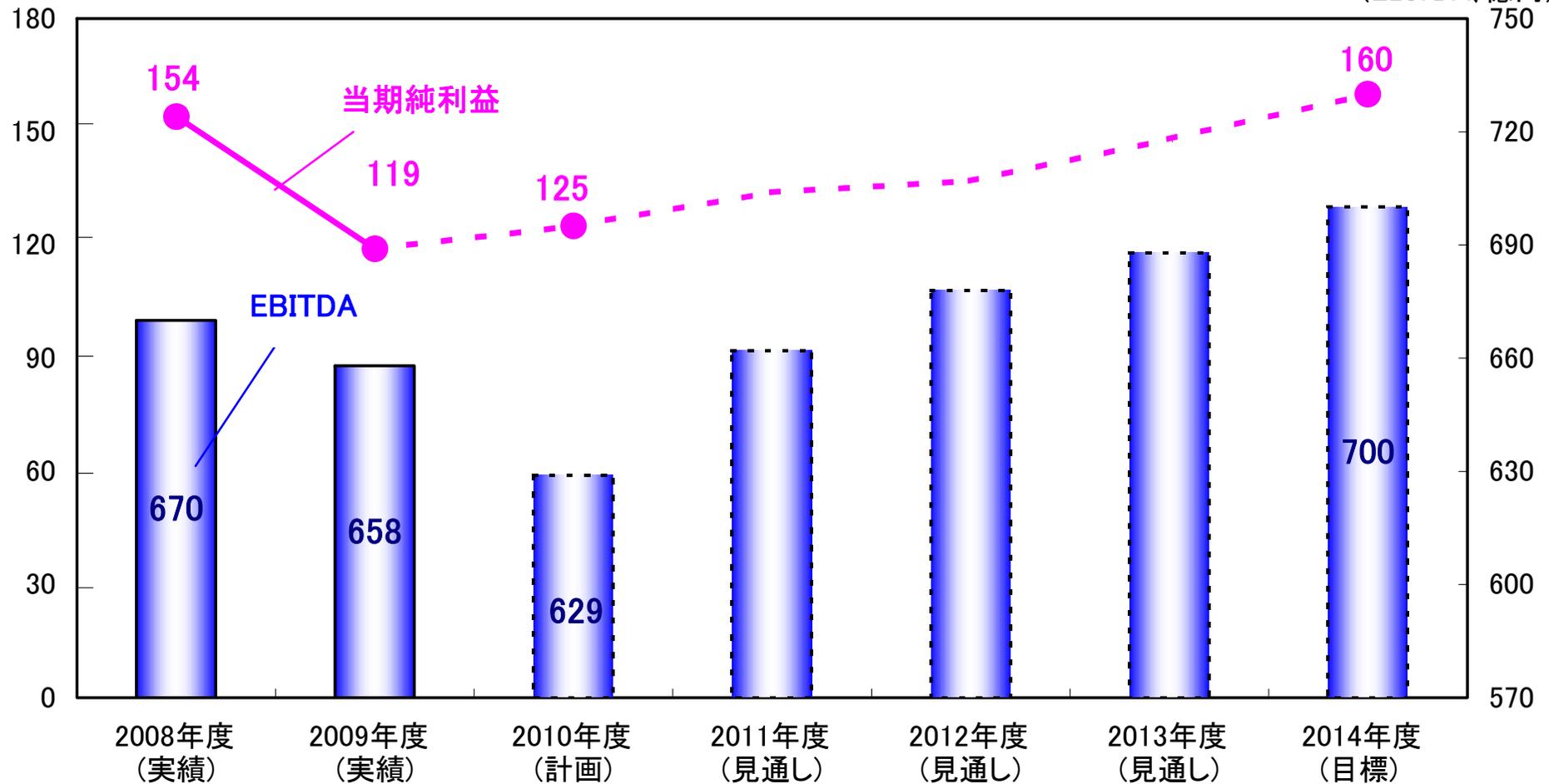


3. 利益水準の回復

< 当期純利益、EBITDAの見通し >

(当期純利益、億円)

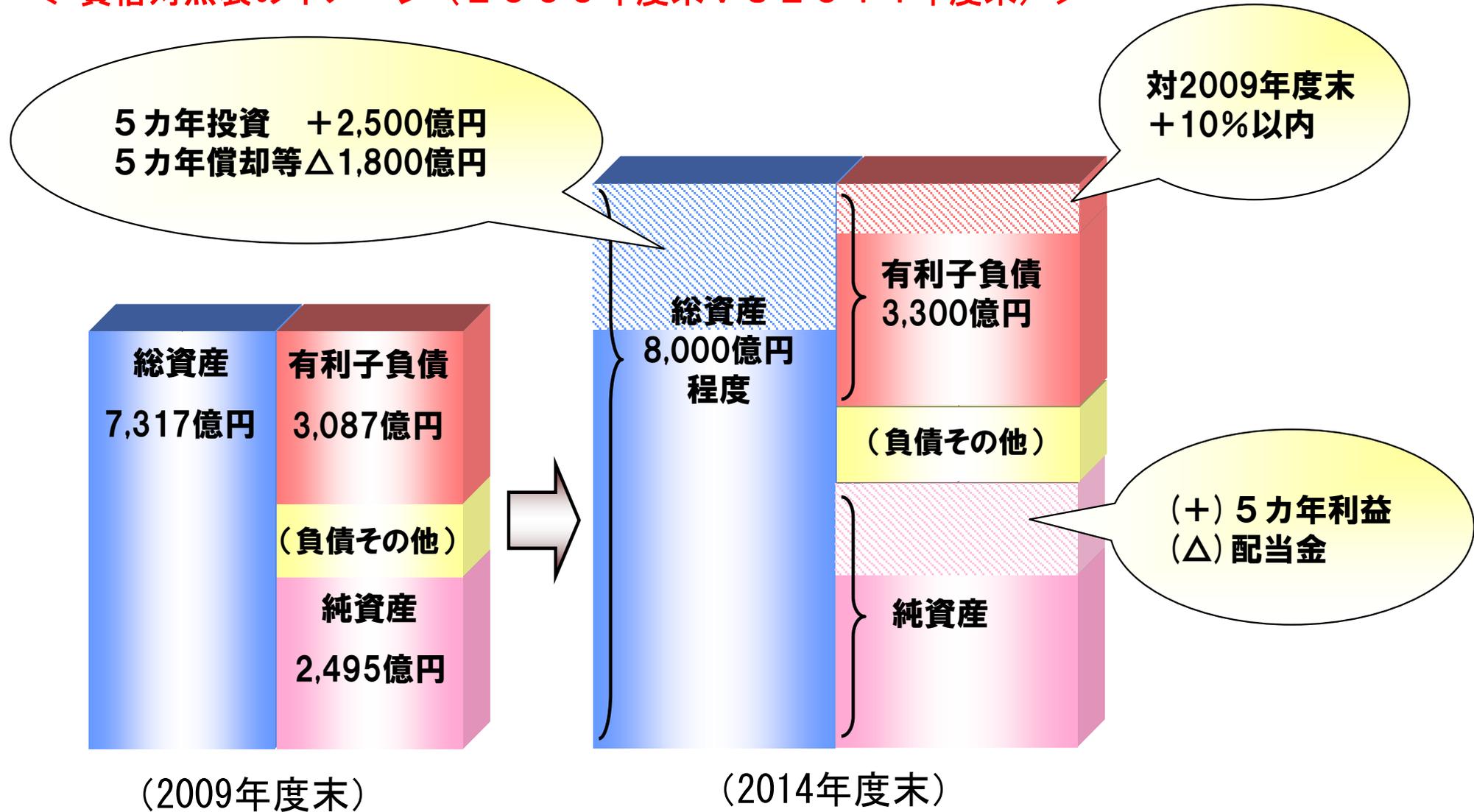
(EBITDA、億円)



(注) EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

4. 財務体質の改善

< 貸借対照表のイメージ (2009年度末 vs 2014年度末) >



自己資本比率 40%
D/Eレシオ 1.1倍

5. 経営目標 [2014年度目標]

< 営業収益、当期純利益、EBITDA、有利子負債 >

	2009年度(実績)
営業収益	4,032億円
当期純利益	119億円
EBITDA(注)	658億円
有利子負債	3,087億円



2014年度(目標)	2009年度実績 対 2014年度目標
4,100億円	+68億円
160億円	+41億円
700億円	+42億円
3,300億円	+213億円

(注) EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

6. 京王グループ中期5カ年経営計画の概要

< 当5カ年における基本方針 >

< 継続的取組み >

安全性の向上、沿線の活性化

+

< 5カ年重点テーマ >

「転換と強化」

将来にわたり発展・成長する企業

株主還元策

強固な財務体質

利益水準の回復

7. 株主還元策

**連結配当性向30%以上を目標とする
株主還元策を導入**

Ⅲ. 2010年度重点施策・業績予想

対処すべき課題と重点施策

2010年度重点施策

さらなる安全性・サービスの向上

- 安全性の向上
- 安心・快適な輸送サービスの提供
- 大規模工事の推進

沿線の活性化 ～街のチカラに～

- 沿線拠点開発の深耕と具体化
- 新たな施策への取組み

1. さらなる安全性・サービスの向上 ①

<鉄道事業における主な設備投資の進捗状況>

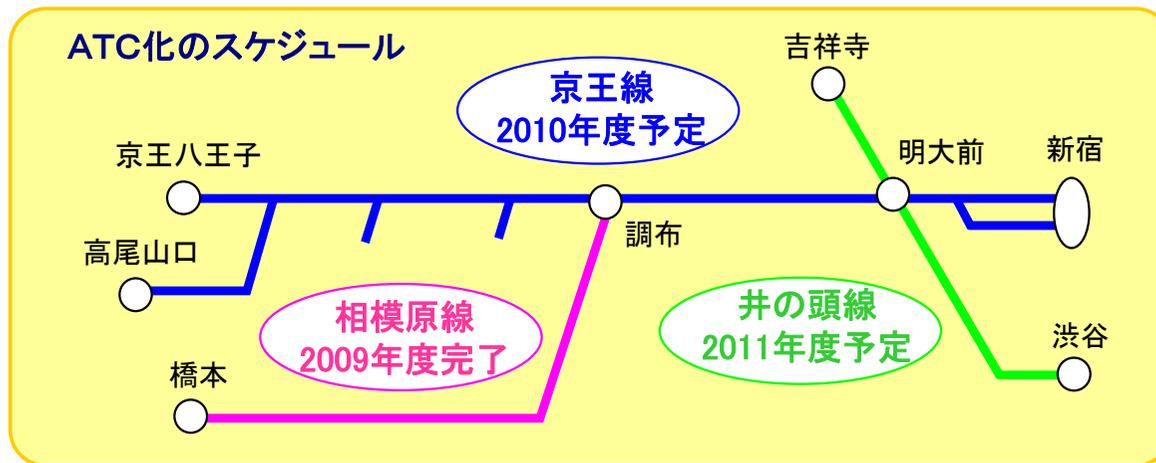
設備投資	スケジュール							
	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度以降
ATC(自動列車制御装置)の整備 <安全性向上>					2010年度完了予定			
					京王線			
新造車両導入 <安全性向上など>					2009年度完了			
					済			
地下駅火災対策 <安全性向上>					2008年度完了			
					済			
駅のバリアフリー化 <バリアフリー化>					2010年度完了予定(下北沢駅除く)			
調布駅付近連続立体交差事業 <安全性向上>					2012年度完了予定			
笹塚以西の鉄道立体化 <安全性向上>								

1. さらなる安全性・サービスの向上 ②

➤ 安全性の向上

A T C (自動列車制御装置) の整備

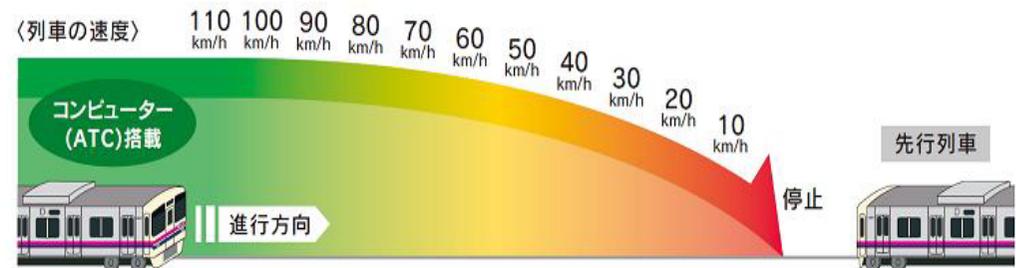
鉄道技術基準の改正に基づき、曲線等における列車の速度超過対策、踏切冒進対策として全線で整備を進める。2010年3月に相模原線（調布駅～橋本駅間）でA T Cの使用を開始。2010年度末に京王線、2011年度末に井の頭線での使用開始に向け、引き続き工事を継続。



ATCの使用を開始した相模原線

< A T C 導入による効果 >

従来のATS(自動列車停止装置)に比べ、列車速度をさらにきめ細かく制御するほか、曲線・分岐などで、制限速度を超えないよう自動的に列車を減速させることが可能となり、安全性が一層高まる。



ATCによる列車制御のイメージ

1. さらなる安全性・サービスの向上 ③

▶安心・快適な輸送サービスの提供

駅のバリアフリー化

バリアフリー新法に基づく駅の段差解消を図るため、橋上駅舎化など駅改良工事を推進する。2009年度末現在、全69駅中56駅で段差解消済み。2010年度末までに下北沢駅を除く全駅で完了予定。

【橋上駅舎化】

エレベーターやエスカレーター、南北自由通路などを備えた橋上駅舎とすることでバリアフリー化を図る。あわせて店舗を併設するなど、さらなる駅の利便性向上も図る。

〔2010年度 バリアフリー化予定駅：計9駅〕

芦花公園駅・つつじヶ丘駅・西調布駅・武蔵野台駅・多磨霊園駅・東府中駅・百草園駅・南平駅・富士見ヶ丘駅

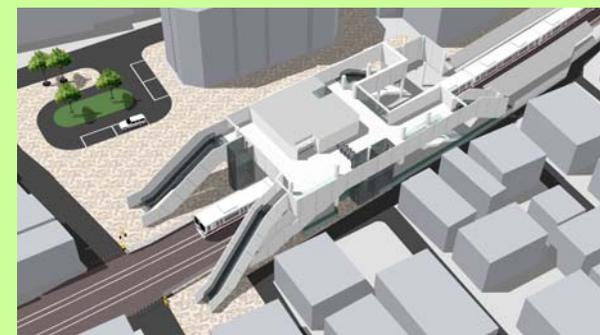
【エレベーター設置等】

現在の駅施設にエレベーターやスロープなどを設置し、バリアフリー化を図る。

〔2010年度 バリアフリー化予定駅：計3駅〕

千歳烏山駅・平山城址公園駅・新代田駅

《現在進めている橋上駅舎化の例》



芦花公園駅完成イメージ



東府中駅完成イメージ

1. さらなる安全性・サービスの向上 ④

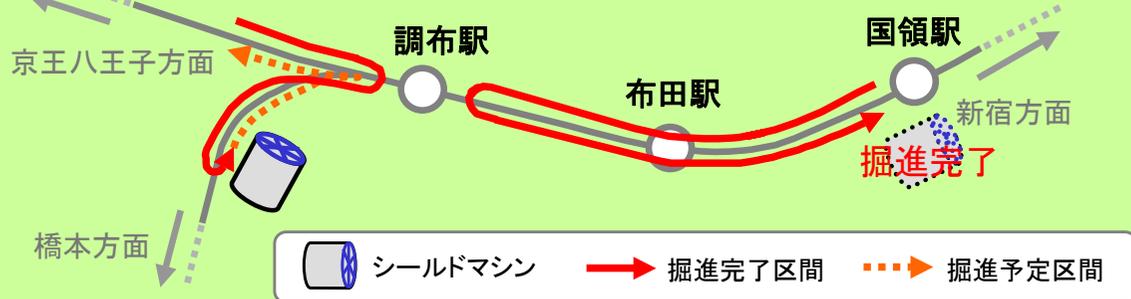
▶大規模工事の推進

調布駅付近連続立体交差事業

京王線の柴崎駅～西調布駅間約2.8kmと、相模原線の調布駅～京王多摩川駅間約0.9kmの区間を地下化することにより、18カ所の踏切を解消する。事業完了は2012年度を予定。
2010年度は、シールドトンネルの掘進を完了するほか、調布駅などの駅部躯体築造などを推進する。

《工事進捗状況》

〔シールドマシンによるトンネル掘進〕



〔国領駅・布田駅・調布駅の駅部など〕
線路下の掘削と躯体築造を進める



調布駅西側立坑の様子
(調布駅～西調布駅間、調布駅～京王多摩川駅間の
上り線トンネルが貫通)

笹塚以西の鉄道立体化

事業主体である東京都とともに事業化に向け、代田橋駅～つつじヶ丘駅付近の都市計画および環境影響評価の手続きを進めていく。

2. 沿線の活性化 ～街のチカラに～ ①

▶沿線拠点開発の深耕と具体化

京王吉祥寺駅ビルの建替え

拠点開発による収益力や当社グループのブランド力向上を目指すとともに、建物の耐震性強化による鉄道駅を含めた総合的安全性向上を目的に駅ビル建替工事に着手する。

2014年度の開業を目指し、工事と並行してビルコンセプトなどの検討を推進する。



完成予想図（地上10階、地下2階）

2. 沿線の活性化 ~街のチカラに~ ②

▶ 新たな施策への取り組み

商業系施設の展開

バリアフリー化などの駅改良工事にあわせ、新たに創出されるスペースを商業施設として展開している。保育所の設置など当社グループの出店を進め、利便性向上や収益力の強化を目指す。

《商業施設展開の事例 永福町駅 2011年3月完成予定》



永福町駅ビル（完成予想図）



入居が予定されている店舗・施設（イメージ）
左：キッチンコート（京王ストア）、右：京王キッズプラッツ（保育所）

- <1F> キッチンコート(京王ストア)
- <2F> K-Shop(京王リテールサービス)など物販・サービス店
- <3F> 京王キッズプラッツ(保育所)など物販・サービス店

2. 沿線の活性化 ~街のチカラに~ ③

▶ 新たな施策への取り組み

住居系施設の展開

開発可能な当社社有地が減少するなか、既存社有地の開発だけでなく、既存施設の建替えや当社グループの各所有地の活用を検討するなど賃貸資産の拡充に取り組む。



(仮称) 緑町3丁目マンション(完成予想図)
〔社員寮跡地に建設〕



アコルト新宿落合(2009年4月完成)
〔京王百貨店 小滝橋物流センター跡地に建設〕

2. 沿線の活性化 ～街のチカラに～ ④

▶ 新たな施策への取り組み

シニアレジデンス事業への参入

高齢者の増加にともない高度且つ多様化するニーズに応えるため、安心して快適なライフステージの提供を目的とし、沿線価値の向上につなげるとともに、収益の確保と当社グループの業容拡大を図る。1号店開業に向け、運営サービスの内容・体制を確立させ、新会社を設立する。

子育て支援事業の推進

選ばれる沿線の価値の一つである、「子育てしやすい沿線のイメージ」の定着をはかり、将来にわたって子育て世代に住んでいただくことを目的に事業を開始。現在では沿線に東京都認証保育所を4施設展開している。



京王キッズプラッツ南大沢

【施設一覧】

施設名	開設時期
京王キッズプラッツ多摩川	2008年3月
京王キッズプラッツ高幡	2008年4月
京王キッズプラッツ烏山	2008年9月
京王キッズプラッツ南大沢	2010年4月
京王キッズプラッツ永福町	2011年4月予定

2. 沿線の活性化 ～街のチカラに～ ⑤

▶ 新たな施策への取り組み

カード戦略の進展

当グループのハウスカードとして長年ご愛顧いただいている“京王パスポートカード”について、よりお客様にご利用いただけるよう提携カードの刷新を検討するとともに、ポイントメニューの多様化などの会員サービスの増強や顧客分析による販促活動の強化により、カード会員や取扱高の増加を図る。

《今後のカード戦略の具体的取り組み(イメージ)》



会員数の増加＝グループ内取扱高の増加を目指す

[参考] 沿線の活性化 ~街のチカラに~ 2009年度のトピックス

<優良賃貸物件の取得>

安定的であり、競争力を持つ優良賃貸物件について、都心部を中心に取得の検討を行ってきた。

2009年3月に「日本橋小網町ビル」の一部を取得したほか、12月に商業施設「新宿三和東洋ビル」を取得。このほか、オフィスビルの取得・保有を目的としたSPCへの匿名組合出資なども実施し、収益基盤の強化を図った。



新宿三和東洋ビル(外観)

<フードテーマパーク「東京ミートレア」オープン>

2009年12月にオープンした複合型商業施設「フレンテ南大沢(新館)」の最上階に日本初のお肉料理のテーマパークとしてオープンした。

沿線住民の余暇ニーズの充足による沿線価値向上と、話題性のある集客施設として鉄道利用の増加にも寄与した。



東京ミートレア(施設内)

<「武蔵野タワーズ タワーズモール」内に 「キッチンコート」三鷹店をオープン>

2010年3月、JR中央線三鷹駅北口徒歩2分という好立地に、上質な食材を豊富に取り揃えた「キッチンコート」三鷹店(京王ストア)がオープンした。

この施設の一部は当社がサブリースという形で運営しており、優良な当社グループ店舗の拡充を推進した。



キッチンコート「三鷹店」

3. その他の取組み

▶ 経営体制の整備

- ・ 国際会計基準への対応として、体制の整備や方針を策定し、準備を進める
- ・ 事業継続活動に基づく、大規模災害や新型インフルエンザの発生リスクに備えた危機管理体制の維持向上

▶ 環境活動への取組み

- ・ グループとしての環境関連法規制強化への対応、環境マネジメントシステム活動に積極的に取り組む
- ・ 京王線7000系車両18両をエネルギー効率のよいVVVFインバータ制御装置へ改造し、2010年度末の整備率を96%とする

▶ 周年事業の検討

- ・ 2013年度の京王線・路線バス開業100周年に向けた施策の検討を開始



省エネルギー化を進める京王線7000系車両

2010年度業績予想

1. 連結損益計算書

〈単位：億円〉

	2010/3	2011/3 予想	増減額	増減率
				%
連結営業収益	4,032	3,950	△ 82	△ 2.0
連結営業利益	299	268	△ 31	△ 10.5
連結経常利益	262	232	△ 30	△ 11.7
連結当期純利益	119	125	5	4.4
連結EBITDA	658	629	△ 29	△ 4.4
減価償却費	358	360	1	0.4
[参考] 資本的支出	776	625	△ 150	△ 19.4

	運輸業	流通業	不動産業	レジャー・サービス業	その他
(営業収益)	△ 1億円	△ 57億円	△ 10億円	+ 33億円	△ 39億円
(営業利益)	+ 1億円	△ 8億円	△ 11億円	+ 2億円	△ 18億円

- (注) 1. 連結EBITDAは、連結営業利益 + 減価償却費により算出している。
 2. 事業セグメント別の営業収益、営業利益の増減額には、セグメント間取引を含む。

1-2. 主な業績の変動要因 (2010年度業績予想)

[連結営業収益・営業利益]

- ＜運輸業：減収増益＞ → (タクシー業) 需要減
- ＜流通業：減収減益＞ → (百貨店業、ストア業、駅売店業) 売上減
- ＜不動産業：減収減益＞ → (不動産賃貸業) 商業施設の建替えにともなう賃料収入の減
- ＜レジャー・サービス業
：増収増益＞ → (旅行業、広告代理業) 取扱高の回復
- ＜その他：減収減益＞ → (建築・土木業、車両整備業) 受注減

2. 事業セグメント別 収支予想

〈単位:億円〉

	営業収益			営業利益		
	2010/3	2011/3 予想	増減率	2010/3	2011/3 予想	増減率
			%			%
運 輸 業	1,270	1,269	△ 0.2	112	114	0.9
流 通 業	1,724	1,667	△ 3.3	47	39	△17.7
不 動 産 業	253	243	△ 4.1	91	80	△12.4
レジャー・サービス業	652	686	5.2	27	30	8.0
そ の 他	591	552	△ 6.6	31	13	△59.4
小 計	4,491	4,417	△ 1.7	311	278	△10.7
連 結 修 正	△ 459	△ 468	—	△ 11	△ 9	—
合 計	4,032	3,950	△ 2.0	299	268	△10.5

3. 事業セグメント別 資本的支出

〈単位:億円〉

	連結資本的支出		
	2010/3	2011/3予想	増減額
運 輸 業	492	398	△ 93
流 通 業	48	47	△ 1
不 動 産 業	199	146	△ 53
レシ`ャ-`サ-ヒ`ス 業	36	34	△ 1
そ の 他	6	9	2
連 結 修 正	△ 6	△ 10	△ 3
合 計	776	625	△ 150

4. 鉄道事業運輸成績 (2010年度業績予想)

<輸送人員>

	2010/3	2011/3 予想	増 減	増減率
	千人	千人	千人	%
定 期	364,696	364,623	△ 73	△ 0.0
(通 勤)	272,785	272,675	△ 110	△ 0.0
(通 学)	91,911	91,948	37	0.0
定 期 外	268,479	268,668	189	0.1
合 計	633,175	633,291	116	0.0

<旅客運輸収入>

	百万円	百万円	百万円	%
定 期	33,624	33,632	8	0.0
(通 勤)	29,989	29,997	7	0.0
(通 学)	3,634	3,635	0	0.0
定 期 外	45,556	45,567	11	0.0
合 計	79,180	79,200	19	0.0



この説明資料には、現時点における将来に関する前提・見通しに基づく予測が含まれております。実際の業績は、様々な要因により記載の予想数値と異なる可能性があります。

【連絡先】

京王電鉄株式会社

総合企画本部 経理部

齋藤 金子

PHONE : 042-337-3135

FAX : 042-374-9810